

テモテ
第一
⑤

「真実の報酬を 求めよう」

テモテへの手紙第一 5章 信仰者への配慮と原則

アウトライン

0. イントロダクション

I. 主にある家族・やもめへの対応

1～16節

II. 長老の権利と責務 17～25節

III. まとめと適用

長老の報酬から考える

信仰者の責務



トルコ・エーゲ海

テモテへの手紙第一とは？

- 著者 …使徒パウロ。
- 宛先 …エペソ教会を指導中のテモテ
- 執筆時期・場所 …不明
聖書の文脈、意図に従うなら…
→パウロが、エペソからギリシャへ
三度目のコリント訪問の旅の途中？
- 目的 …牧会書簡(テモテ、テトス)
牧会上の実践的な助言。励まし。



テモテとは？

- アジア州のリストラ出身。
- 父はギリシャ人。母はユダヤ人。
祖母ロイスと母ユニケより信仰を受け継ぐ。
幼い頃から聖書教育を受けた。
- 第二次伝道旅行のパウロと出会い、同行する。
- パウロの信頼厚く、残留したり、派遣されたり。
6つの手紙をパウロと共同執筆(コリントⅡ、
ピリピ、コロサイ、テサロニケⅠ・Ⅱ、ピレモン)





I. 主にある家族・やもめへの対応 テモテ第一 5章1～16節

勧め 勧めの本質 テモテ5:1

年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい*。若い人には兄弟に対するように、

*パラ(傍らで) + カレオウ(呼ぶ)

…慰める。懇願する。頼む。励ます。

■「勧める」→立ち直る、応える、という
決断の主体は相手にある。

■愛に基づく関係を結ぶために大切なのは、
強要せず、**自発的**な応答を願うこと。



勧め 純粋な願いをもって テモテ5:2

年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。

- 神に対する信仰の応答は、自発的な愛に基づくものでなければ意味がない。
→ 愛の神は、愛の応答を求めておられる。
- 「勧め」も、信仰の成熟を純粋に願い、相手の自発性を尊重して行われるべき。



勧め 親の恩への報い テモテ5:3~4

やもめの中の**本当のやもめ***を大事に
なさい。

もし、やもめに子どもか孫がいるなら、
まずその人たちに、自分の家の人に敬愛を示
して、**親の恩に報いる***ことを学ばせなさい。
それが神の御前に喜ばれることです。

*身寄りもなく、経済的に困窮したやもめ

***“先祖”**(IIテモ1:3) → 信仰者の親

信仰者の親からの最大の恩は、「信仰」

「父母を敬え」は、キリストの律法にも。



勧め 二人のやもめ テモテ5:5~6

身寄りのない本当のやもめは、望みを神に置いて、夜昼、絶えず神に願いと祈りをささげていますが、自堕落な生活をしているやもめは、生きてはいても死んでいる*のです。

*神と断絶されている。救われていない。



命令 神の命令と非難 テモテ5:7

彼女たちが**非難***されることのないように、
これらのことも**命じなさい***。

「 | テモ6:14 私たちの主イエス・キリスト
の現れの時まで、あなたは汚れなく、**非難***
されるところなく、命令を守りなさい。」

*ここからは、神の権威に基づく**命令**。

■ 神の命令に違反すれば、裁きがある。

➔ 神による**非難(裁き)**を受けないように



命令 家族の世話 テモテ5:8

もしも親族、特に自分の家族の世話をしない人がいるなら、**その人***は信仰を否定しているのであって、不信者よりも劣っているのです。

*男性形

…家族(妻子・両親)の世話をしない夫

■教会の中に、家族を顧みない者がいた?!

→家族への責務を果たさない信仰などありえない!!



命令 やもめの名簿 テモテ5:9~10

やもめとして名簿に載せる*のは、六十歳未満ではなく、一人の夫の妻であった人で、良い行いによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助けるなど、すべての良いわざに励んだ人*にきなさい。

*教会の献身者としてのやもめ

*妻として。信仰者として。



命令 若いやもめ テモテ | テモ5:11~13

若いやもめの登録は断りなさい。彼女たちは、キリストに背いて情欲にかられると、結婚したがり、初めの誓いを捨ててしまったと**非難***を受けることになるからです。

そのうえ、怠けて、家々を歩き回ることを覚えます。ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話さなくてよいことまで話すのです。

*クリマ …裁き、罰。

神への誓いを捨てれば、神の罰がある。

→あとは、墮落へ一直線。



命令 若いやもめ テモテ5:14~15

ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子を産み、家庭を治め*、反対者*にそしる機会をいっさい与えないことです。

すでに道を踏み外し、サタン*の後について行ったやもめたちがいるからです。

*女性が賜物を発揮する次善の道。

➔これ以上の最善がフルタイムの献身

*キリストに反対する者の究極がサタン。

■的確に弱みを突いてくるサタンに、隙を与えない生き方 ➔日々、主に従うこと



命令 身内のやもめ テモテ5:16

もし信者である女の人に、やもめの身内がいるなら、その人がそのやもめを助けて*、教会に負担をかけないようにしなさい。そうすれば、教会は本当のやもめ*を助けることができます。

*家族、親族のやもめを助けるのが原則。





Ⅱ. 長老の権利と責務

I テモテ5章17～25節

命令 二倍の報酬 テモテ5:17

よく指導している長老は、二倍の尊敬*を受け
けるにふさわしいとしなさい。みことばと教
えのために労苦している長老*は特にそうです。

*ティメー …尊敬(ロマ2:7)、代金(使4:34)
代価(マタ27:6, 1 コリ6:20)

➔二倍とあるので報酬(代価)が適切(新共)

*聖書を教える長老…牧師、教師

※参考…長子は二倍の相続を受けた。



命令 当然の報酬 テモテ5:18

聖書に「脱穀をしている牛に口籠をはめてはならない*」、また「働く者が報酬を受けるのは当然である*」と言われているからです。

*申命記25:4

*ルカ10:7 …「その家にとどまり、出される物を食べたり飲んだりしなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからです」

→弟子の二度目の派遣(72人)の時の命令

■律法もメシアも、主のために働く者の報酬を当然のこととして、命令している。



命令 長老への訴え テモテ5:19～20

長老に対する訴えは、二人か三人の証人*がいなければ、受理してはいけません。

罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい*。そうすれば、ほかの人たちも恐れを抱くでしょう。

*真実であると神の前で誓える者

➔必ずしも第一目撃者に限定されない。

悪例) エホバの証人の虐待の隠蔽

➔主を見たことがなくともキリストの証人

*指導者の罪を隠蔽してはならない。



命令 厳命 テモテ5:21～22

私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で、あなたに厳かに命じます。これらのことを先入観なしに守り、何事もえこひいきせずに行いなさい*。

だれにも性急に按手をしてはいけません*。また、ほかの人の罪に加担してはいけません。自分を清く保ちなさい。

*一連の命令はキリストの律法として厳守すべきもの。

*長老の任命には、十分な審査が必要。



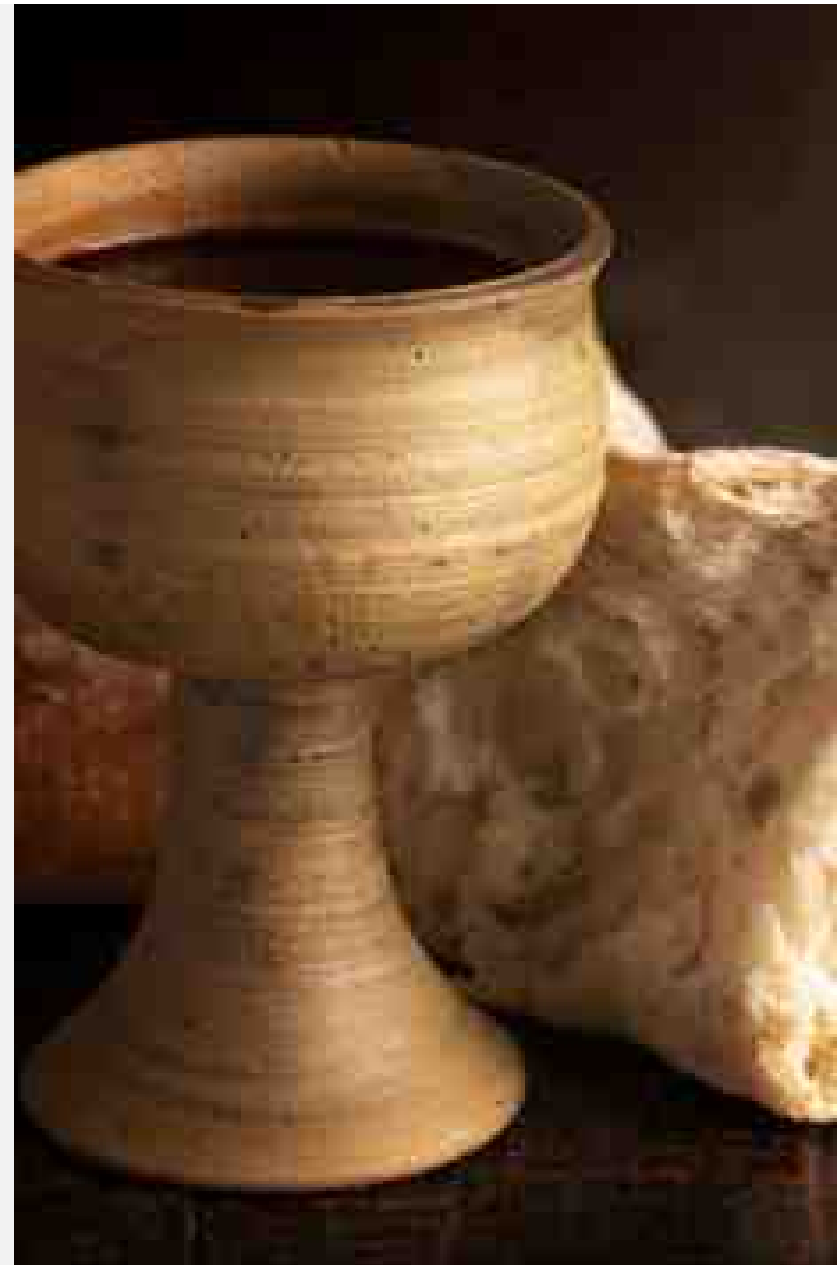
配慮 少量のぶどう酒 テモテ5:23

これからは水ばかり飲まないで*、胃のために、また、たびたび起こる病気のために、少量のぶどう酒を用いなさい。

*「大酒飲み」と律法主義者からの非難があったのだろう。※ナジル人は断酒。

「ルカ7:34 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。」

➡主の祝祭を喜ぶのが、クリスチャン



宣告 神の裁き テモテ5:24~25

ある人たちの罪は、さばきを受ける前から明らかですが、ほかの人たちの罪は後で明らかになります。

同じように、良い行いも明らかですが、そうでない場合でも、隠れたままではいられません。

「1コリ4:5 主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごとにも明らかにされます。」

■主を恐れること信仰者に求められる。





IV. まとめと適用

長老の報酬から考える信仰者の責務

トルコ・エーゲ海

パウロは報酬を受けなかった？

■ コリントでは報酬を受けなかったが、マケドニアの教会の支援を受けていた(Ⅰコリ11:6)

「Ⅱコリ11:8 私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための**給料を得た**のです。」

【コリントで報酬を受けなかった理由】

- ① コリントの信者の信仰が幼かった。
- ② 無報酬で教えていた律法主義者に対抗するため。
 - ➔ パリサイ人は職人階級が中心。自給が原則。
 - ➔ 元パリサイ人のパウロは天幕造り職人だった。

■ コリントでの件は、むしろ、レアケース。

安易な適用不可!!



無報酬で働くのが理想？

- パリサイ人は職人階級。手に職を持ち、自給するのが矜持。
 - ➔パウロも、元パリサイ人。天幕造りを職としていた。
 - ➔開拓期など必要があれば働いたが、基本は報酬を得ていた。

- 主イエスも弟子たちに、報酬を得るのは当然だと教えた。

「ルカ10:7 その家にとどまり、出される物を食べたり飲んだりしなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからです。

 - ➔二度目の、72人の派遣の時のイエスの命令

ただで与えるべきものとは？

- 聖書に、指導者のただ働きを推奨しているところはない。
→ 逆に、正当な対価を与えるようにと、再三、命じている。
- 奉仕者は誰もが、どこからか報酬を得ている。自分の仕事も同様。
悪例) 他からの献金のみで、地域教会では無報酬だった牧師
→ 他の教会から奪っている。コリント教会と同じ!!
- 「無報酬」という欺瞞 → 本当に無報酬なら飢え死にする。
→ むしろ、カルト指導者が「無報酬」を強調することがある。

クリスチャンが、ただで与えるべきものとは？

■ 12弟子の派遣に伴うイエスの命令 マタイ10:7~8

「行って、『**天の御国が近づいた**』と**宣べ伝えなさい***。病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出しなさい。あなたがたは**ただで受けた**のですから、**ただで与えなさい**。」

■ ここで、ただで与えよと命じられているのは、「御国の福音」「ナザレのイエスが、約束されたメシア」として来られたということ。

適用

福音はただで告げる。聖書を教える者は対価を得る。

★ 信者の働きには永遠の対価がある ★

「マタイ6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

- 主は、主を第一として求め、仕えるものに対価を約束されている。地上での必要は、加えて与えられる。
- すべての信者は、来たるべき神の国で永遠の対価を約束されている。ただで伝えた福音には、神からのはかりしれない報いがある。

ただ主に信頼し、福音宣教の使命に遣わされて行こう!!

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

みことば つた はたら びと ひつよう じゅうぶん み
御言葉を伝える働き人の必要が、十分に満たされますように。

くなん なか もの たす
苦難の中にある者を、あなたが助けてください。

あた ふくいん わたし つた い
ただで与えられた福音を、私はただで伝えて行きます。

えいえん みくに ほうしゅう え もの
永遠の御国で、はかりしれない報酬を得る者としてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」